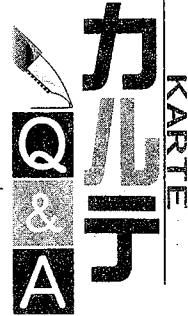


76歳の妻のことです。少し前、前触れもなく腸が出てきました。かかりつけ医で診てもらったところ、脱肛とのことでした。少し様子を見てみることになりましたが、治りそうにありません。大変困っています。何か治療法はないのでしょうか。(男性)

脱肛・直腸脱



松田武医師

ご相談の方の状況からは脱肛よりは直腸脱の可能性が高いと考えられます。脱肛は内痔核(いぼ痔)などが肛門の外に脱出し

た排便時の強いいきみが誘因となることもあります。初期は排便するのに強いいきんだ時に直腸が肛門から脱出し、いきむのをやめると自然に戻ります。しかし病状がさらに進むと歩行時や入浴後などに脱出し、手を使わないと自然に戻らなくなります。

経肛門手術は腰椎麻酔(場合によっては局所麻酔)で行えるため、負担が少なく比較的安全ですが、再発率が高いといわれています。一方、腹式手術は再発率は低いのですが、全身麻酔で行う上、直腸を人工シートで覆ってつり上げるなど負担が大きくくなります。腹式、経肛門手

術のどちらを選択するかは、脱出の程度や患者さんの全身状態を考慮して決定します。直腸脱は高齢者、特に女性に多い病気で、社会の高齢化にもない増加傾向にあります。症状が気になったら早めに専門医による診察と検査を受けることが重要です。治療にあたってはそれぞれの術式の長所と短所を理解し、主治医とよく相談して決めることが肝要です。(兵庫県医師会、松田武神戸市中央区、神戸大病院・低侵襲外科・特命准教授)

◇第1、3、4日曜に掲載します。

手術し治療、早めに専門医へ

ている状態で、治療法は脱肛の原因となつている内痔核の治療を行うことが原則です。

一方、直腸脱は、その名の通り、直腸が肛門外に出ている状態であり、原因として加齢によって骨盤の底を支える筋肉が弱くなるのが考えられます。ま

治療法は直腸の脱出をなくし、便漏れや排便障害を改善することが目標となり、基本的に手術となります。大きく分けて、

肛門部から操作する経肛門手術と、腹腔側から開腹手術や腹腔鏡手術で行う腹式手術の2種類があります。

術のどちらを選択するかは、脱出の程度や患者さんの全身状態を考慮して決定します。

直腸脱は高齢者、特に女性に多い病気で、社会の高齢化にもない増加傾向にあります。症状が気になったら早めに専門医による診察と検査を受けること